

Imajin21

今人  
創造

まちかど探索  
榎原市今井町

奈良の  
伝統工芸

藍染

大和郡山市  
箱本館

「紺屋」

イマジン 21 は初刊以来 9 年を経過し、1 年にわずか 2 回という発行ながら、主に奈良にこだわった記事を中心にお届けしてきました。

表紙は 18 号まで同じデザインでしたが、今回より「まちかど探索」に登場するところを写真で紹介することにいたしました。

また、前号ではイマジン (imagin) と表記していたタイトルを今号より今人 (Imajin) と、スペルを変えて「今人創造」といたしました。イマジンの元来持つ意味である「創造」と「今の人」という 2 つの意味を造語で表現します。

これからも「奈良」を中心とした取材で発行していきたいと考えております。

代表取締役社長 近東 宏光

Imagin21



リレー連載	世界遺産	奈良の風景 ③	1 ~ 3
Essay		印刷文化逍遙 19	4 ~ 5
まちかど探索		橿原市「今井町」	6 ~ 7
特集		大和の酒蔵めぐり ⑦	8 ~ 9
奈良の伝統工芸		「藍染」	10 ~ 11
報告		PAGE2009 / 中国 印刷機材展	12 ~ 13
付録		印刷に関するマークの紹介	

## 職場風土改革促進事業への取り組み

少子高齢化社会にあって、これからは益々多様な働き方が企業に求められております。一方、働く人は、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）をより重要視する中において、企業としてはそれらを必要十分に充足する環境づくりが不可欠であります。

弊社は、平成 14 年には ISO14001 を認証取得、また 18 年にはプライバシーマークを取得するなど、時代のニーズに合致した経営推進に努力してまいりました。そして、労働時間等設定改善法が施行されて（平成 18 年）以後、社内で委員会をたちあげ「有給休暇を取得しやすい環境づくり」をめざし、残業が避けて通れない業界にあって、残業時間を少しでも減少する努力なども含め企業理念の中

にある「人間生活の向上」に邁進したいと考えております。

人間生活の向上とは、従業員の仕事と家庭の両立を支援することも大きく関係しており、具体的な取り組みは左記の通りです。

取  
組  
み

- ① 仕事と家庭が両立できる働きやすい会社作り（ワーク・ライフ・バランスの推進）
- ② 育児・介護休暇制度の充実を図る
- ③ その制度を利用しやすい環境作り
- ④ 管理職層への研修の実施
- ⑤ 両立支援制度の労働者への周知徹底



編集/制作/発行  
共同精版印刷株式会社 <http://www.kspkk.co.jp/>

本社：〒630-8013 奈良市三条大路 2 丁目 2-6 TEL 0742-33-1221 FAX 0742-33-7035  
大阪支社：〒542-0082 大阪市中央区島之内 1 丁目 12-3 TEL 06-6271-7951 FAX 06-6271-7954  
東京支社：〒116-0014 東京都荒川区東日暮里 5 丁目 6-4 TEL 03-3802-4741 FAX 03-3802-4740



ミックス品  
FSC 認証林及び管理された  
森林からの製品グループです  
[www.fsc.org](http://www.fsc.org) Cert no. SA-COC-001747  
© 1996 Forest Stewardship Council



世界  
遺産  
The World Heritage

リレー連載

# 奈良の風景

3

訪れる人を  
やさしく迎え入れる奈良  
一三〇〇年の時を超え  
今なお受け継がれる景観美  
その美の内には  
住む人達の人情も  
受け継がれている

〜ベッドタウンの終焉〜

# ベッドタウンの終焉

自然環境と引き換えにした  
高度経済成長

奈良といえど何を思い浮かべるだろうか。おそらく多くの人は、平城京、寺院、神社、大仏、鹿などを真っ先に思い浮かべるはずである。これらは、古都奈良の景観を語る上でなくてはならない存在である。しかし、奈良の景観を特徴づけるものは、こうした深い歴史をもつものだけではない。ここ数十年の間に、奈良を特徴づける景観のひとつになったものが「住宅地」である。

戦後、大都市で働く人々の多くは、郊外に住居を求めようようになった。奈良は、大阪で働く人々が住居を求めて移動してきた結果、典型的な大阪のベッドタウンとなったといえるだろう。奈良よりもいち早く市街化が進んだ大阪府内では、人口の郊外化が一段と顕著になった高度経済成長期には、もはや大規模に住宅地開発を行うことが可能な土地は限られていた。一方、奈良は、戦前にごく一部の地域（学

園前や菖蒲池の駅付近など）で住宅地開発が行われた以外は、自然が多く残されてきた。ここに高度経済成長以後、住宅地開発が大規模に進んでいくこととなった。歴史的風土の保存を心がけ、努力されている方々にとつては、あまり認めたくはないことではあるが、こうした大規模住宅地も、奈良を代表する景観のひとつといえる。

とりわけ住宅地開発が顕著であったのは、奈良、大阪、京都の三府県にまたがる京阪奈良丘陵や矢田丘陵、生駒山麓である。既存集落が数多く立地する奈良盆地平野部にも宅地化の波は押し寄せたが、丘陵地の宅地化はそれ以上に大規模であった。いずれの宅地化も、奈良の景観を大きく変えることとなったが、後者の丘陵地の宅地化は、空中からの景観をも大きく変えることとなった。通常、私たちは、自分の目線の高さで眺める景観に感動したり評価を下したりするが、ここでは、普段見ることのない上空（衛星）からの景観

に着目してみたい。

図1は、衛星画像（一九八九年撮影）をもとに、奈良を中心とした部分を鳥瞰図で示したものである（小方登、京都大学准教授提供）。白くなっているところは、森林等で覆われていた地域の土砂が掘削されていったことを示している。京阪奈良丘陵、矢田丘陵、生駒山麓には白い部分が多く、それだけ住宅地開発が顕著に行われたことを物語っている。丘陵地を切り開いた大規模住宅地には、森林に囲まれ



図2



た小高い場所に立地するものが多いが、それらは概して住宅地の外にいる人々の目には入りにくい（図2）。地形的条件が、大規模開発の実態を覆い隠す役割を果たしているようである。しかし、上空からみれば、そのような「役割」も空しく、明らかに自然景観と引き換えに大規模住宅地が造られていったのだということが判明してしまう。

もうひとつ、大規模住宅地開発がどの時代に行われてきたのかを示した図3（小方登、京都

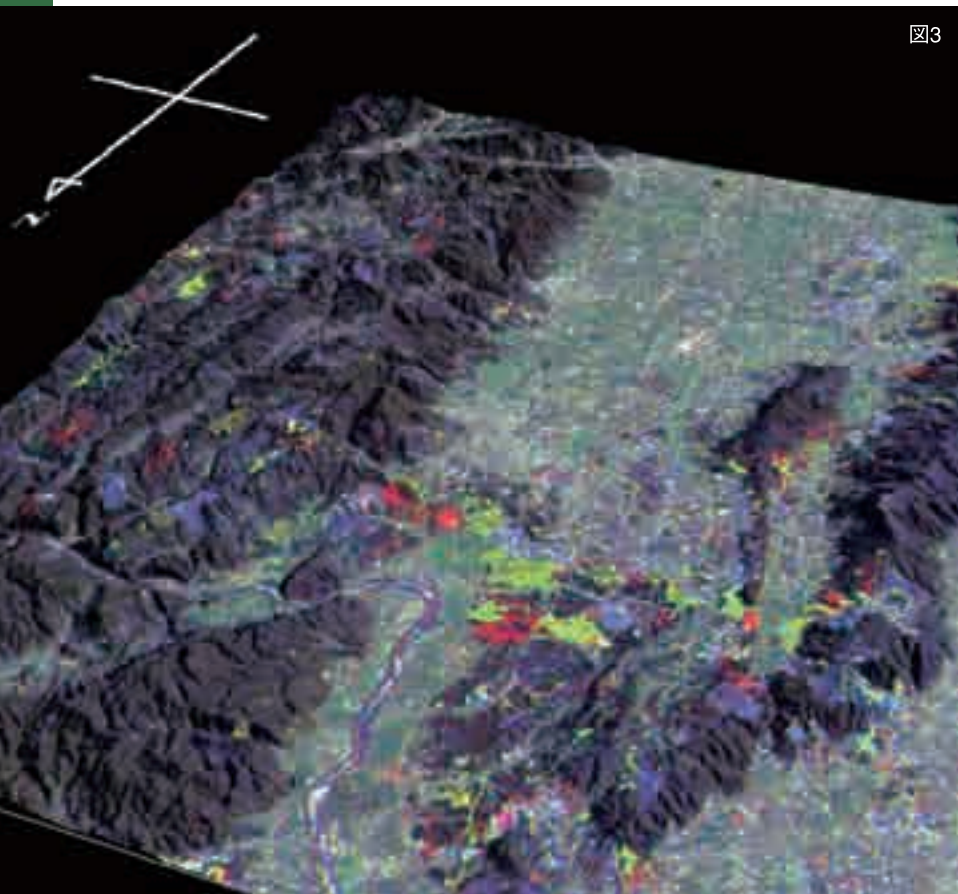


図3

大学准教授提供)をみていただきたい。この図において、青色に見えるところは、一九七八年時点で造成中または開発完了間もないところである。緑色に見えるところは、一九七八年には森林であったが、一九八九年には造成中または市街地になったところである。赤色に見えるところは、一九八九年には森林であったが、二〇〇〇年には造成中または市街地になったところ

である。

これらの色の付いた地域は、三重県と接する東部山間地域においてのみみられる。ただし、その多くは住宅地開発ではなく、ゴルフ場建設やダム建設によるものが中心である。これらも、自然環境と引き換えにした高度経済成長の産物である。

再び京阪奈丘陵、矢田丘陵、生駒山麓に戻ろう。生駒市北部から奈良市、京都府南部にか

けての一带に緑色がひととき目立って見えるが、これらは、まさしく大規模住宅地開発によるものである。一九七〇年代、一九八〇年代は、平城・相楽ニュータウン、関西文化学術研究都市をはじめとする当該地域の大規模住宅地開発プロジェクトが着工、完成した時期でもある。

赤色にみえる地域は、緑色に比べるとずいぶん少なくなったような感じを受ける。これは、大阪大都市圏の外延的拡大が一九九〇年代には沈静化してきたことを物語っている。冒頭でも述べたように、奈良は戦後、大阪のベッドタウンとしての役割を果たしてきたが、ついにその役割を終えようとしている。

これまでの数十年間の住宅地開発の結果、現在の奈良(北部)において、住宅地はごくありふれた景観要素のひとつとなった。それゆえに、現在もベッドタウン化が継続しているような錯覚を受けるが、実際は違う。ちなみに、最近(二〇〇七年)の奈良県と大阪市の間の人口移動をみると、大阪市から奈良県への転入者数は三六八八人、奈良県から大阪市への転出者数は四五〇一人、合計で奈良県から八一年七人住民基本台帳人口移動報告

より)。当然のことながら、大阪のベッドタウン化が顕著であった一九七〇年前後は、奈良県への大幅な転入超過であった。

近年、コンパクトなまちづくりが少子高齢化時代における理想像とみなされるようになってきたが、これは、奈良が提供してきた庭付き一戸建ての住宅地開発とは対照的なものといえる。また、大阪への通勤者であった男性の多くが、近年いつせいに退職を迎えている。この流れは、必然的に奈良が大阪のベッドタウンではなくなる動きを加速させるだろう。戦後の奈良を象徴するベッドタウンが終焉を迎える中で、新たな時代の奈良の景観を象徴するものはいったい何になるのだろうか。

## 稲垣 稜

【いながき りょう】

1974年・岐阜県生まれ(滋賀県在住)  
名古屋大学大学院博士後期課程修了。現在、奈良大学文学部地理学科講師・博士(学術)  
専門:都市地理学(特に郊外の地域構造を若年者や郊外二世帯の視点から研究している)  
著書など:単著論文「大都市圏郊外のニュータウン出身者の移動行動」地理学評論76-8「大都市圏郊外に立地する事業所のアルバイト求人行動と若年者の求職行動」人文地理57-1  
分担執筆:『都市の景観地理 日本編2』(古今書院)「現代都市地域の構造再編」(原書房)





# 印刷文化逍遙

19

## フランス詩のことなど

文庫本のことを書き出すと、いくらでも話が出てくるから楽しい。まず、文庫本では詩集のことを語りたい。

それらの中でいまはもう絶版になっているフランスの中世の泥棒詩人、フランソワ・ヴィヨンの詩集から始めたい。この詩人の名前を知ったのは、いまは亡きフランス文学者辰野隆の随筆『信天翁（あほうどり）の眼玉』であった。その本は岩波文庫の『ヴィヨン全詩集』（昭和四十年五月十六日、第一刷発行、私の所有は同四十一年一月十日、第二刷発行である）で、訳者は鈴木信太郎である。

たことがあった。今は昔の懐かしい話である。ところで、文庫本ではヴィヨンの詩集はこれだけかというところではなく、創元文庫（この文庫もいまは絶版になっている）でも佐藤輝夫という人の訳で『ヴィヨン大遺言書』というタイトルで発行されていた。奥付をみると昭和二十八年十一月十日 初版印刷 同二十八年十一月十五日 初版発行となつている。名前からみてもわかるように、これは株式会社創元社から発行されていた。定価は一〇〇円である。

任を持つということになるのだらう。

他に、新潮文庫では村上菊一郎の編による『フランス詩集』がある。奥付には昭和二十七年十月二十日 発行 同三十四年七月十日 九刷 とある。内容はアロイジウス・ベルトランから、シャルル・ボオドレル、ステファヌ・マラルメ、ポール・ヴェルレーヌ、アルチュール・ランボー、アルベール・サマン等、フランスのロマン派から象徴派に至るまで、十九世紀全般の詩人の作品を集めたもので、訳者も上田敏、西條八十、永井荷風、鈴木信太郎、村上菊一郎、堀口大学、小林秀雄等々、多岐に亘っている。

これらは、戦後昭和三十年代に青春期を送った者にとつては、またとないフランス詩集であり、愛読書の一冊でもあった。ほかにも同文庫では、堀口大学訳の『ヴェルレーヌ詩集』（昭和二十五年十一月二十五日 発行 同四十三年三月二十九日 二十五刷）や、堀口大学記『グウルモン詩集』（昭和二十六年七月二十五日 印刷 同二十六年七月三十一日 発行）など、これらの詩集に読み耽ったことがある。また、すでに書いたことであ

るが、堀口大学訳のボオドレルの『悪の華』も、熱心に読んだことがよみがえってくる。この『悪の華』は奥付によると昭和二十八年十月二十七日 印刷 同二十八年十月三十一日 発行 となつている。いまでは永い歲月故か、本文紙も変色して、やや茶色っぽくなっている。また、同じ本が岩波文庫でも鈴木信太郎の訳で出ており、こちらの方の奥付には、昭和三十六年四月五日 第一刷発行 同三十六年五月十五日第二刷発行 となつている。定価は二〇〇円。いずれにせよ、どちらも、かけがえのないわが青春の形見であり、あの頃はいかにこれらの詩



ヴェルレーヌ詩集



フランス詩集

集を愛していたかがわかる。  
ちなみに「梟（ふくろう）」  
という詩の三、四連を引いてみ  
よう。

梟の態度は 賢者に教へてゐる。  
この世に於いては 騒いだり  
足掻いたりするのは 禁物で、  
移ろふ影に 酔ふ人は  
場所を変へようとした  
天罰を 常に受ける、と。

これは鈴木信太郎の訳である  
が、つぎに堀口大学の訳を引こう。

梟のふり見て賢人は  
悟がひらけて思ひ知る、



グウルモン詩集



悪の華

あがきと動きは禁物だ、  
通り魔の影追ふ者は  
身のほど知らぬ咎ゆゑに  
絶えず悩むと。

二人の訳にはくせはあるが、  
訳としてはどちらも意味がとれ  
るだろう。要するに、人生いざ  
というときは、落ちついて物事  
をよく判断せよということにな  
るだろうか。うろろしても結  
局何もわからないというのだ。「ふ  
くろう」は、そんな人生哲学を  
ちゃんと知っていると言いたかつ  
たのだろう。訳は鈴木信太郎は  
学者だから若干固い。それに反  
して堀口大学は詩人だから、や  
はり柔らかくて親しみやすい感  
じがする。

また、グウルモンの田園詩「シ  
モオン」というのもよい。

シモオン お前の毛の林のう  
ちに  
大きな不思議がある。

お前は 乾草の匂ひがする。  
お前は 獣が寝たあとの 石  
の匂ひがする  
お前は 鞞革の匂ひがする。  
お前は 簸ひ立ての小麦の匂  
ひがする。

(後略)

いずれも、シモオンという女  
性に対して、寄びかけるように  
謳われているみごとな田園詩で、  
遠い日の郷愁を呼び寄せている  
ような気持ちを感じさせる。

現代はすぐれた詩人が少なく  
なっている。これは想像力が貧  
しくなったのか、それとも創造  
力が涸渇したかのいずれかだろう。  
たしかに以前とくらべ物質的  
には豊かになった。だが、精神  
的には後退しているのではない  
だろうか。はっきり言って、心  
が貧しくなっている。

近代の詩人たちは、現代人に  
対して、そのような呼びかけを  
しているのではないだろうか。

もう少しつけ加えると、現代  
人はあまり詩集を読まなくなっ  
ている。それがそもそも詩と離  
れる大きな原因になっているの  
だ。わたしが中学生のころは、  
教科書に詩が掲載されていて、  
それらを読まされ、家でもよく  
読んだものだ。

働くようになってからは、好  
きな人の詩集を買い、夜になっ  
てから読んだ。また、日曜日、  
どこへ行くあてもないときは、  
思い出したようにして詩集のペー  
ジを開いたものだ。

そんな詩集のなかには、すで  
に挙げた村上菊一郎編の『フラ  
ンス詩集』や堀口大学訳の『グ

ウルモン詩集』があった。また、  
同じ訳者の『ヴェルレーヌ詩集』  
もあり、「智慧」という詩を読  
んだことがよみがえってくる。

「屋根の向うに／空は青いよ、  
空は静かよ！／屋根の向うに／  
木の葉が揺れるよ。／見上げる  
空に鐘が鳴り出す／静かに澄ん  
で。／見上げる木の間に小鳥が  
歌う／胸のなげきを。」この詩  
はモンスの獄での体験詩だ。ラ  
ンボーとの間にトラブルを起こ  
し、獄に入ったのである。残念  
ながら、詩人ヴェルレーヌの晩  
年は不運であった。



## 嘉瀬井 整夫

【かせい ただお】

1934年京都市に生まれる。

1949年より同94年まで印刷産業に従事。

奈良県立短期大学(現奈良県立大学)卒業。

主著『井伏鱒二私論』

『奈良大和路文学散歩』

『奈良高畑日記抄』ほか。

文芸評論家。

# 橿原市 今井町



奈良県橿原市の中央に位置する今井町

今井町は「大和の金は今井に七分」と言われるほど繁栄したと伝えられています。

その風景は江戸時代にタイムスリップしたかのような町並みです。

現在も当時の佇まいと情緒を残す町として多くの人々が訪れています。

## 今井町の歴史

今井の誕生は、天文年間（一五三二〜一五五五）に、一向宗（浄土真宗）の僧侶今井兵部卿（とよじめ）豊寿によって建てられた今井道場（後の称念寺）の寺内町として成立したと考えられます。寺内町とは、室町時代に浄土真宗の寺院を中心に形成された自治集落のことです。自衛のために見通しのきかない筋違いの道路や、周辺に濠や土居を巡らせ環濠集落として成立していました。（城塞都市）

元亀元年（一五七〇）、天下統一を狙っていた織田信長と一向宗は敵対しており、各地で一向一揆が起こる中、今井町も濠を深くし抵抗しましたが、天正三年（一五七五）織田信長に降服し（信長の赦免状が残っている）

る）、その後、大阪湾に面する堺などと交易が盛んになり「海の堺、陸の今井」と呼ばれるほど商工業が発展しました。

寛永十一年（一六三四）、独自の紙幣である今井札も流通し「大和の金は今井に七分」と言われるほどに経済が繁栄したとされています。堺と並び唯一自治的特権が認められ、惣年寄を中心に組織され、司法・警察権の一部を握っており、町民自ら町掟を定めて社会のルールをつくったとされています。

## 今井町の町並み

江戸時代初期の概略を見ると、東西六〇〇m、南北三二〇m、周囲には環濠土居を築いた戸数一一〇〇軒、人口約四〇〇〇人を擁する財力豊かな町であった





1旧米谷家住宅(重要文化財)



「米忠」の屋号を持ち、もとは金物商を営んでいました。18世紀中期の建物であり、内部は他家と異なる5間取りです。9件ある重要文化財は、空き家もありますが現在も住居として使われており、旧米谷家住宅は施設として一般開放しているので気軽に訪れることができます。  
●入館無料/9時~12時、13時~17時、休:月(祝日の場合は翌日)・年末年始、TEL.0744-23-8297

2河合家住宅(重要文化財)



18世紀後半から「上品寺屋」の屋号で酒屋を営んでいました。軒先には酒屋の看板となる杉玉が吊るされており、現在も営業されています。屋根の一方が切妻、片方が入母屋という珍しい造りです。太い格子、2階の塗籠も特色です。  
●TEL.0744-22-2154

3今西家住宅(重要文化財)



今井町の西口にあり、その西側は環濠となっています。惣年寄の筆頭として町の司法権、警察権が与えられていました。城郭のような構えの「八つ棟造り」と呼ばれる構造は我が国の民家建築史上貴重な建物です。  
●4/15~5/14、10/15~11/14(10:00~12:00、13:00~17:00)のみ見学可、TEL.0744-25-3388

4豊田家住宅(重要文化財)



もとは材木商の所有で大名貸しや藩の蔵元を務めた豪商でした。白壁に「木」の字の意匠が見られ、「西の木屋」と呼ばれていました。白壁と大和格子が印象的で、太い大黒柱や高い梁など、今井町における上層町家の優れた好例として最高級の建築です。  
●TEL.0744-25-0418

5今井まちづくりセンター



御堂筋、称念寺前の平屋建ての老朽家屋を譲り受け再生しました。耐震、採光、環境にやさしい冷暖房装置、その他を考慮した「モデルハウス」とし、小屋裏の空間も利用した建物です。現在、今井町並み保存会の活動拠点となっています。  
●入館無料/9時~12時、13時~17時、休:月(祝日の場合は翌日)・年末年始、TEL.0744-29-9885

6今井まちや館



本町筋の中央部にあり、18世紀初期の町家です。明治以降は空き家の期間が長く、老朽化していましたが、調査の結果、今井町の大型町家の基本平面を持っている貴重な建物であることが判明しました。現在は当初の姿に復元し、公開されており、江戸時代中頃の雰囲気を感じることが出来ます。  
●入館無料/9時~12時、13時~17時、休:月(祝日の場合は翌日)・年末年始、TEL.0744-22-1287

7称念寺本堂(重要文化財)



今井町は、称念寺の境内地に発達した寺内町です。本堂は近世初頭に再建されたもので、外廻りに角柱を並べた大規模真宗寺院の特徴をよく表した建物で、屋根は大きな入母屋造本瓦葺で素面しています。付属建物も数多く存在し、明治10年、天皇の欣傍御陵行幸のとき行在所となりました。  
●TEL.0744-22-5509

8今井まちなみ交流センター「華臺(はないらか)」



明治36年(1903)奈良県最初の社会教育施設として建設され、後に今井町役場として使用されていました。現在は今井町の資料室、展示室、映像シアター、図書閲覧室として開放されており、今井町の歴史を様々な角度から知ることが出来ます。また、今井まち歩きの見学にもなっており、訪れる際はまず華臺で各資料を見学してから出掛けることをお勧めします。  
●入館無料/9時~17時、休:月(祝日の場合は翌日)・年末年始、TEL.0744-24-8719



▲落ち着いた雰囲気が漂う町並みは江戸時代にタイムスリップしたかのようだ

ことが分かります。南・西・東・北・今・新町の六町の町割りがあり、門は九つ、外部との連絡は土橋を通過しなくてはならないようになっていました。内部の町筋はおおよそ碁盤の目ですが、見通しのきくものではなく、ほとんどの道が一度屈折させてあります。これは敵の侵入に備えたものであり、遠見を防ぎ、弓矢・鉄砲の射通しを不可能にする役割を果たしていました。現在も今井町には伝統的様式を残す建物が五〇〇棟余りあり、その中には国の重要文化財九件、県の文化財三件、市の文化財五件が含まれています。また、今井町は平成五年十一月八日に「重要伝統的建造物群保存地区」として選定されています。今井町

ふと気になる印象的なマンホールの蓋。江戸時代の面影を残す今井町の伝統的な町並みが忠実に写し込まれています。



の文化財は、単に保存されているのではなく、現在も住民が生活している生きた町として全国でも他に例を見ない貴重な文化遺産とされています。



樺原市教育委員会資料提供

樺原市・社樺原市観光協会

〒634-8586 奈良県樺原市八木町1丁目1番18号  
TEL 0744 (22) 4001 樺原市観光課  
〒634-0078 樺原市八木町1丁目7番36号(樺原市役所北館1階)  
TEL 0744 (20) 1123 社樺原市観光協会

※個人の住まいの見学は、住居者の都合により見学出来ない場合もあります。いずれも事前連絡が必要です。

ガイド料は無料

但し、交通費としてガイド1名につき1,000円申し受けます。(受付は平日のみといたします。) 案内が食事時間帯にかかるとは食事料も負担願います。

お申込は1週間前までに

お申し込みは、樺原市観光協会へ

## 大和の酒蔵めぐり

## 梅乃宿酒造株式会社

7

大和盆地の西南に連なる葛城の峰々。古事記・万葉の時代から幾多の神話伝説を秘めた葛城の地。今回は、梅乃宿酒造様を訪れました。



江戸時代中期より酒屋を営んでいた本家より、焼酎・味噌を醸造していた分家筋の当主・熊太郎が、明治二十六年酒造業を受け継いだのが始まりです。明治二十六年創業というのは、奈良では若手の蔵。創始・熊太郎氏は新規参入の心意気で、品質にこだわりシェアを広げたと伝えられています。

酒銘の「梅乃宿」とは、蔵の庭にある樹齢三〇〇年の梅の木に鶯が飛来し、その風雅なさえずりを楽しませてくれることにちなんで命名されたそうです。

仕込みの忙しい二月ということとで、いろいろな現場を見学させていただきました。

その中でも、特に興味深かった「製麹室」をご紹介します。この部屋では「製麹」と言って、蒸米に麴カビを繁殖させ麴を造る工程が行われます。新しく作られた秋田杉の室で、中は菌が繁殖しやすいように暖かく湿度調節を行っています。良い麴をつくると、良いお酒ができるといわれるほど重要な工程で、良い麴は栗の香りがするそうです。説明を受けた通り、部屋中栗の香りが漂っていました。出来上がった麴を食べさせて頂くと、お米とおもえないほど甘みが強くなり、弾力がありました。

五代目の禊を受け継ぐ、吉田佳代様にお話しを伺いました。

酒蔵にしては珍しくスタッフの平均年齢が三十三歳と大変若く活気があるのが特徴です。「チャレンジ精神でいろいろな意見を取り入れる」という考えのもと、商品開発や海外展開を積極的に行っておられます。

日本酒造りを行わない夏場を有効活用するにはどうしたらよいかと皆で話あい、夏でも作れるリキュール・焼酎造りなども始められました。

また、期間限定で同蔵のお酒が入ったチョコレートと地元のお菓子屋さんコラボレーション。また、リキュール造りで残る果実を使ったジャム、日本酒造りで出る米ぬかを使った石鹸、という具合にもったいないを形にしたお酒造りを心掛けておられます。その時に誕生した「あらごし梅酒」は蔵の代名詞になるほどの人気です。

日本の香りゆずということとで「ゆず」は Japanese Lemon と呼ばれ評判なのだとか。現在、アメリカ・香港・台湾・ドバイに輸出されていますが、今後は欧州やブラジルも視野に入れておられるそうです。

「梅乃宿」ブランドは今後ますます世界各地に広がっていきます。

米洗いの様子です。米を袋から同時に出し、洗います。作業は秒単位のため長年の経験が必要です。その日の気温・湿度によって水につける時間が決まります。



製麹室の中にある製麹機です。菌が繁殖しやすいよう、室内は温度調整により温かく保たれています。



今回ご説明頂いた吉田佳代様。

## 酒蔵貝学



製麹機で出来上がった米麹（米に菌を生やしたもの）です。むらや固まりのないよう手で丁寧に混ぜられます。米麹はほんのり甘い味がします。



瓶詰め工程です。一本一本検品が行われ、出荷されます。

### こだわりの

# お酒



#### ●本醸造 梅乃宿

梅乃宿ブランドの中で最も長寿な銘柄です。地元の方々の毎日の晩酌酒として昔から愛飲されています。



#### ●あらごし梅酒

梅酒に漬け込んだ梅の実を何かに活用できないかという発想から誕生しました。あらごしした梅の果肉が入っており、食感までも楽しめるデザート梅酒です。



#### ●ゆず

天然ゆず果汁をふんだんに使った爽やかなお酒です。試飲者のほとんどが購入するという人気商品です。



#### ●アンフィルタード・サケ

フィルターを通していない、つまり無濾過のお酒です。日本酒でありながらワインのようにフルーティーです。



#### ●月うさぎ

お米だけでいいねいに作られた低アルコールのやさしい微発泡酒です。フレンチやイタリアンにも相性のよい味わいです。



#### ●飛鳥るびー

奈良県農業技術センターとの共同企画で生まれました。奈良の名産「飛鳥ルビー」を原料に、爽やかな甘味と酸味が楽しめるリキュールです。



## 梅乃宿酒造株式会社

〒639-2102 奈良県葛城市東室27  
TEL 0745-69-2121 FAX 0745-69-2122  
WEB <http://www.umenoyado.com>  
E-mail [info@umenoyado.com](mailto:info@umenoyado.com)



# 奈良の伝統工芸 ⑨

## 藍染

### 世界に名をはせる匠のワザ

藍染の歴史は古く、飛鳥時代

より前に伝わったとされ、伝来以降、全国各地で染料である藍が栽培され、暖簾や浴衣などの染に使われ、人々の暮らしに深く関わってきました。

また、深みのある鮮やかな青色は、世界を魅了し、「JAPANESE BLUE」として、その

名を刻みます。

その色を紐解くため、豊臣秀長の時代、藍染職人の町として栄えた大和郡山市紺屋町にある箱本館「紺屋」を訪れました。

江戸時代を感じさせる佇まいは、大和郡山に残る最古の町屋として、江戸時代から続いた藍染め商「奥野屋」の町屋を再生

したものの。その中は、藍と金魚が楽しめるミュージアムになっています。

昔ながらの技法

「天然灰汁発酵建て」

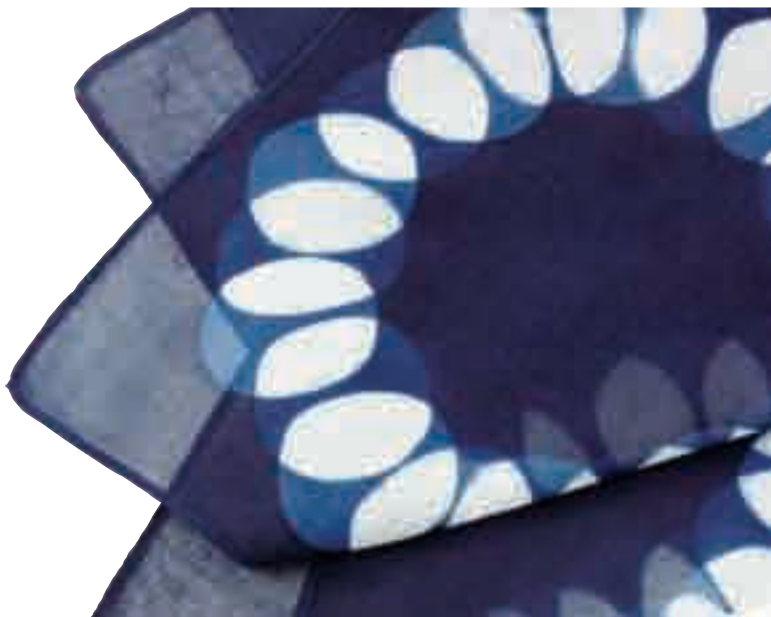
「紺屋」では、江戸時代より伝わる技法「天然灰汁発酵建て」を用いて染液を作られています。

この技法は、藍甕に薬、石灰、日本酒、灰汁、ふすま（小麦の皮）を加え、一週間から十日程かけて発酵させ染液を作る技法

です。

その染液を使い、見事な藍色に出会うまで、藍染は、染作り、藍建て（染液）、藍染、と多くの工程を経ることになります。

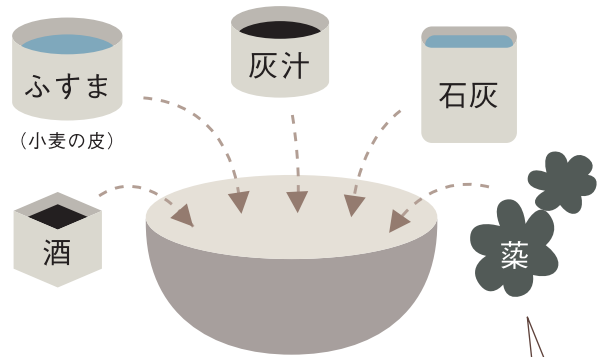
手にかかる技法を用いるのは、染物に独特の照りを出し、科学染料のように色落ちしない、日本の色を守る職人の心の顕れと、紫外線の抑制や防虫・消臭・抗菌効果もあることから、遠い昔から伝わるこの技法に多くの職人が、「一人に優しくありたい」という気持ちで今に伝えるからだと思えます。



「藍の華」<sup>かめ</sup> 甕の中で花開く藍華。



染料を発酵する過程で出来た泡を集めたものです。この華が大きく厚いほど色濃く、小さく薄い華だと淡い藍色に染まります。



箱本館「紺屋」では「天然灰汁発酵建て」という技法を用いて、色の美しさを追求しています。

体験してきました

紺屋様は、伝統工芸である藍染めを体験出来る数少ない工房です。みなさんも是非一度足をはこばれてみてはいかがでしょうか？



きれいな水で洗い、好みの濃さになるまで②と③を繰り返します。



静かに布を沈め甕の中でゆっくり左右に動かします。染まりにくい部分は念入りに揉みます。



染めたくない部分を洗濯ばさみやフィルムケース・ビー玉・石ころなどで覆います。



染とは、藍草（あいぐさ）に水を打ち、100日間発酵させた染液の原料です。



完成です。



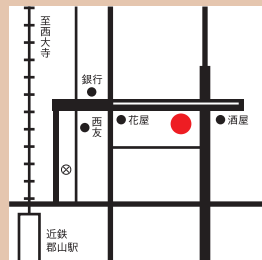
酢につけて色を定着させ、干してできあがりです。



紺を基調とした濃淡から生まれる模様は私達を惹きつけます。

体験工房に入り、まず最初に気が付くことは匂いです。工房一帯に広がるこの匂いは、藍が発酵する時に出るものだそうです。藍独特の匂いに包まれた工房はとても印象深く、訪れる方々が必ずと言っていい程この匂いのことを聞かれるそうです。

甕に布を浸していく工程では、浸けている時、布はまだ青くはなく深緑色をしています。しかし、空気に触れると酸化し、綺麗な青色に染まっていきます。



箱本館「紺屋」

〒639-1148 大和郡山市紺屋町19-1  
TEL 0743-58-5531 FAX 0743-58-5541  
WEB <http://www.hakomoto.com>



# PAGE 2009

# report

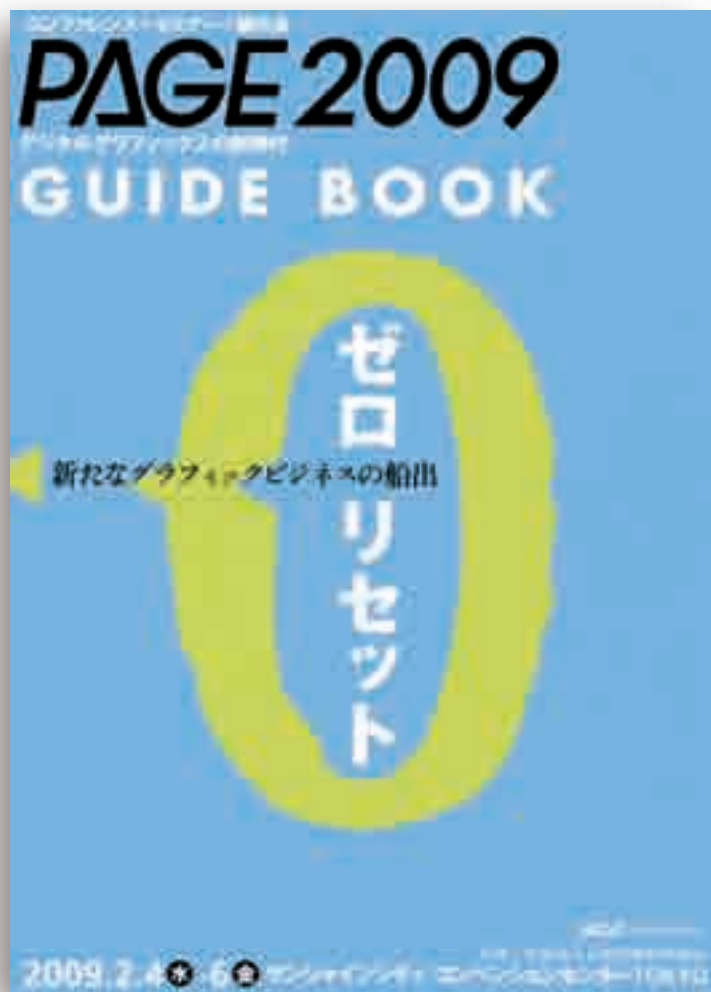
2009年2月4日(水)～6日(金)

サンシャインシティコンベンションセンター-TOKYO

去る二月四日(水)～六日(金)の三日間、社団法人日本印刷技術協会(JAGAT)主催のPAGE 2009が、東京の池袋、様々なアミューズメント施設やショップ、レストラン街等を擁するサンシャインシティ内のサンシャインシティコンベンションセンターTOKYOにて開催されました。

今回のテーマは、従来のDTP関連・JDF/MISに加え、デジタルプリントやクロスメディアにも重点を置き、これら全体にまたがるビジネスを考えた「ゼロリセット―惰性のメディアビジネスに終止符を!!」をテーマに一五七社の企業が出展され、それに基づくセミナーも開催されました。

この背景として、高額な機械でしか成しえなかった付加価値印刷も、技術の進歩に伴い、安価な機械でも同等の結果が得られるようになり、高いだけの機



産業やメディア業界は、生まれ変わることを余儀なくされています。また、それが出来ない業界は、今後淘汰されると予想されます。

そうならない為に、業界全体が変革するのは必然と言えます。故に、従来の受注形態を見直し、媒体の特性を活かした新たなサービスを提供していく必要があります。では、どういったサービスが適しているのか、また、それを実現するプロセスに於いて、どのような設備が必要なのか、展示会では、それらのヒントが隠されていました。

最初に立ち寄った会場で印象に残ったのは、DMハガキの封入機や可変(バリアブル)印字機が多数展示されていたことです。これらは、昨今の消費傾向を考え、小ロット対応であることから、コスト削減・効率アップを求めるクライアントの要求に応える機能が付いているものでした。コスト面に於いても従来高額とされていた特殊機器がリーズナブルになってきたように思えます。

この背景として、高額な機械でしか成しえなかった付加価値印刷も、技術の進歩に伴い、安価な機械でも同等の結果が得られるようになり、高いだけの機

械ではなく、価値ある機械が問われる時代になったことを実感させられます。

次の展示ホールには、デジタル印刷や電子BOOK・電子POP・ユニバーサルデザイン等、視覚情報伝達に関する新たな媒体の出展があり、昨今の時代背景に呼応した企業のレスポンスの良さに感嘆しました。

これらを見ていく内に、あつという間に時間が過ぎ、とても一日では全ての展示を見ることが出来ない程、広く深い内容のある展示会でありました。

最後に、業界展示会の傾向として、出展企業が印刷関係だけでなく、プリントメーカーやフィルムメーカーなど異業種の参画が増えている事が印象に残ります。この動向は、プリンター業界のシェア拡大に伴い、印刷業界を切迫したように、業種のバリアフリー化が年々強まる傾向にあると思われまます。

今後、ますます増え続ける異業種の参入は、展開次第で、敵にも味方にもなる混線時代になっていく事が予想されます。その中でいかに早くゼロリセット（現状打破）して、新たな技術や手法で付加価値を見出していかれるかで、今後の明暗を分けることになるでしょう。



## PAGE 2009 来場者数

(3日間合計) **74,360** 人 / 昨年度 68,280 人

2月4日(水)	19,430 人
2月5日(木)	25,650 人
2月6日(金)	29,280 人

- ◆ 出展社数 157 社
- ◆ 出展小間数 628 小間

今回は 2010 年 2 月 3 日(水)～5 日(金)の開催予定です。



## 第3回中国国際全印展を見学して

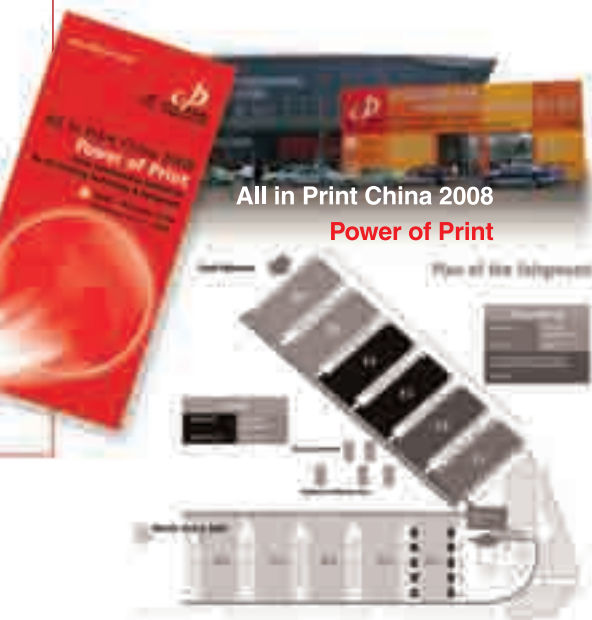
ある各国のメーカーがメインで展示されていて見学者も多く華やいだ感じでした。2、5ホールは、中国メーカーとその合併企業の展示会場になっていましたが、見学者もそれ程多くなく、全体的に地味な印象を受けました。

ここ数年、中国印刷業界の市場は巨大な潜在力があり、印刷マーケットの需要が年十五%のスピードで増加しているそうです。特に昨年は北京オリンピックが中国経済と印刷業に新しいチャンスと発展をもたらしたとも言われています。また、来年には上海万博（五月一日～十月三十一日）が開催され、益々成長を続ける中国の印刷業界から目が離せません。

昨年十一月十四日から十七日まで上海新国際博覧センターで、六つのホール（七万平方メートル）を使用して第3回中国国際全印展が開催され、七百社余りが出展があり、世界中から六万人の来場者がありました。日本で開催される印刷機材展は、年々出展するメーカーも減り、それに比例して来場者も減少し、規模がかなり縮小されている現状とは対照的でした。

今回は「印刷のチカラ」(Power of Print)をテーマに、DRUPA 2008の最新情報や中国の印刷技術の最先端を紹介するものでした。

六つのホールを使って開催されていましたが、最初と最後のホールは、ネームバリューの



命が吹き込まれる

木森があり

樹が育ち

箱本館  
紺屋

大和郡山市  
箱本館 「紺屋」

Imajin21

創今  
造人

悠久の歴史の流れ、古の都は  
今も、その面影を色濃く残す  
いくつものドラマがあり  
新たな時代が生まれた  
そこから先人の英知を知り  
人を見つめ直す  
そして「今」を創造す

KYODO SEIHAN PRINTING

KSP

そして紙ができ



私たちは、平城遷都1300年  
記念事業を応援しています。



ミックス品  
FSC認証林及び管理された  
森林からの製品グループです  
www.fsc.org Cert no. SA-COC-001747  
© 1996 Forest Stewardship Council

本誌は、「FSCミックス認証紙」を使用しています。





# 印刷物に

## あるmark

私達の身の回りには、様々なマークが入っています。その多くは、詳細が明記されておらず、マーク自身も認知されていないケースが殆どです。今回は、その疑問を紐解く為に、主だったマークの詳細を紹介します。



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用

### 再生紙使用マーク

ごみ減量化のために設立されたNGO、ごみ減量化推進国民会議で定められており、古紙配合率が容易にわかる表示です。例えば「R100は古紙配合率100%」という風に、Rの後の数字は配合率を意味しています。平成14年にごみの減量から一歩進んだ「ごみゼロ型社会づくり」活動を目指すことで、「ごみ減量化推進国民会議」から「ごみゼロパートナーシップ会議」に名称が改まりました。平成18年にはさらに「3R活動推進フォーラム」と変更。3Rとはリデュース、リユース、リサイクルを表します。

### エコマーク



環境を汚さない、環境を改善できる環境保全商品としてエコマーク事務局認定によって、ついています。環境庁の指導のもと、「環境手により良い商品」を推奨しようとするものです。再生紙利用の一般事務用品・OA用品の場合、再生パルプの使用率が50%以上のものに認定されます。

### ソイインクマーク



大豆インク（SOYINK）を使用し、印刷されたことを表します。ソイインクマークには大豆油インキ用と大豆油インキを使用した印刷物用マークの2種類です。

### グリーンマーク



古紙を再利用した製品に付けられているグリーンマーク実行委員会認定のマークです。グリーンマーク事業は、古紙の再生利用の意義の認識と社会環境緑化の推進を図るためのものです。このマークの収集に応じて、消費者である学校や自治体、町内会などに苗木を送り、学校および地域の緑を増やすことによって、自然環境の保護、森林資源の愛護などの意識向上に役立てることを目的としています。

### JKAマーク（ケナフマーク）



ケナフ（非木材）という植物で、森林資源に代わる紙原料として注目されています。ケナフは生育の過程で二酸化炭素の吸収、固定に優れています。地球環境に役立つケナフ関連事項及び製品に適合する認定マークです。

### 非木材紙マーク



非木材紙普及協会が認定しているマークです。「安定供給、品質面で十分に満足できると判断された非木材パルプを使用した紙や紙製品、加工品につけられるマークです。地球環境保全に役立てるために、木材の代替資源としての非木材を利用した製品開発、利用普及と啓蒙活動を図ることを目的としています。」



## クリオネマーク

オフセット印刷の刷板～印刷工程からVOC<sup>※</sup>や有害廃液を出さないことで「ゼロエミッション」を実現環境保護に貢献、配慮した印刷物の1点1点、1枚1枚に自己適合宣言した「環境保護印刷マーク(クリオネマーク)」を付与する認定制度。環境保護印刷推進協議会が運営する制度であり、印刷業界の環境負荷低減に寄与した印刷製品の提供を推進しています。

※VOCとは、揮発性を有し、大気中で気体状となる有機化合物の総称であり、トルエン、キシレン、酢酸エチルなど多種多様な物質が含まれます。



## TREE FREEマーク

日本リサイクル運動市民の会が認定しているマークです。

「バージンパルプの消費による紙の生産に代えて、非木材紙を社会化する事により、森林資源並びに地球環境を保全するとともに、植林のための基金を得て、持続可能な社会に向け、積極的に貢献することを目的とした(非木材紙)TREE FREE PAPER につけられるマークです。」

## FSC認証マーク



FSC (Forest Stewardship Council、森林管理協議会)は、木材を生産する森林、そしてその森林から切り出された木材を使って生産・加工を行なっているかどうかを認証する国際機関の一つです。FSCは、森林環境保全に配慮し、地域社会の利益にもかかない、経済的にも継続可能な形で生産された木材を認証するだけでなく、このFSCのマークが入った製品を買うことで、消費者も世界の森林保全に間接的に関与できる仕組みです。WWFは、世界的な持続的な森林の利用を推進するため、その普及と推進に取り組んでいます。



## 間伐材マーク

森林や果樹園などで、日当たりをよくしたり、木々が伸び伸びと成長できるように、間伐した木々を材料にした製品に、このマークが表示されます。森の育成を促すために間伐の大切さをアピールするとともに、切られた木々を無駄にしないことが、このマークが表示される目的です。



## GPマーク

従来の印刷製品の環境マークが、紙やインキ、または製造工程の一部を対象にしたものに対し、GPマークは資材から工程までの総合的環境配慮マークです。印刷製品にGPマークを表示することで、印刷資材、製造工程、印刷会社の取組全てが、環境に配慮されていることが一目瞭然になります。GPマークを表示するための環境配慮等の条件が公開されており、明確になっています。第三者からなる認定委員会によって認定を受けた工場の印刷製品であり、その内容が保証されています。



## 紙製容器包装

関係業界が容器包装リサイクル法に的確に対応し、紙製容器包装(段ボールを主とするものとアルミ不使用の飲料用紙容器を除く)廃棄物の減量化と合理的なシステム構築を実現することによって、わが国の生活環境の保全と国民経済の健全な発展に寄与します。



## バタフライマーク

バタフライマークは水なし印刷を推進しています。水なし印刷とは、有害物質の使用量や排出量が従来に比べて圧倒的に少ない印刷方式のことです。一般に行われているオフセット印刷の場合、刷版工程で強アルカリ性の現像廃液が発生し、印刷工程で各種有害物質を含んだ湿(しめ)し水を使用します。これに対して、水なし印刷は環境、水質にやさしい、画期的な印刷方式なのです。